

楽しい
道徳
わかる
道徳
の
授業





はじめに

今日、いじめや不登校の問題、学校外での社会体験の不足など、豊かな人間性を育むべき時期の教育に多くの課題があります。これらの課題に対応するには、時代を超えても変わらない価値あるものを、子どもたちにしっかりと身につける必要があります。

道徳教育は、子どもたち一人ひとりが、自分自身や未来をしっかりと見つめ、人間としてよりよく生きるために必要な道徳性を主体的に身につける教育であり、今後一層の充実が求められます。

しかしながら、学校現場の先生方からは、「道徳教育が大事なのはわかるけど、どのように展開したらよいかわからない。」「道徳の授業は難しい。」などの声をよく耳にします。

こうしたことから、少しでも先生方の疑問に答え、「わかる道徳、楽しい道徳」の授業にするための参考資料として本実践資料集を作成しました。

この資料は、理論編と実践編の二部構成となっています。

第一部「理論編」では、道徳の授業を充実させ、子どもたちの道徳性を引き出し深めていくためにはどのようにしたらよいのかを、現場の先生方からいただいた声を中心にQ&Aの形でまとめています。

第二部「実践編」では、文部科学省指定「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」推進校7校から貴重な実践資料を提供していただき、8つの授業の工夫例を掲載しています。

これらの事例には、資料提示の仕方や板書の工夫、自作資料作成までの過程など、「わかる道徳、楽しい道徳」の授業にするための工夫が盛り込まれており、道徳の時間の充実に向けて、ぜひ参考にいただければと考えています。

終わりに、本資料集作成にあたりご協力いただいた、「平成16・17年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」推進校の、みなべ町立南部小学校、広川町立広小学校、日高川町立丹生中学校、有田川町立吉備中学校、紀美野町立野上中学校、「平成17・18年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」推進校の、岩出町立上岩出小学校、紀の川市立安楽川小学校の教職員の皆様に感謝申し上げますとともに、県内の小・中学校で行われる道徳教育が、さらに充実したものになることを願っています。

平成18年3月

和歌山県教育庁学校教育局
小中学校課長 西原 孝幸

も く じ

第一部 理論編 わかる道徳、楽しい道徳の授業にするために

道徳の時間Q & A

Q 子どもが生き生きと学習する道徳の時間にするにはどうすればよいですか？	1
Q 道徳の時間をどのように展開すればよいのでしょうか？	2
Q 一人ひとりを大切にする授業とは？	3
Q 子どもの思考や話し合いを深める中心発問の工夫は？	3
Q 道徳の時間に体験活動を生かすとはどういうことですか？	4
Q 魅力的な資料とは？	5
Q 「心のノート」は、どのように使ったらいいの？	5
道徳の時間の実践的指導力を高めるための6つの引き出し	6

理論編では、文部科学省の指導資料等を参考にしています。



第二部 実践編 授業の工夫例

心に響く資料を生かして	役割演技を取り入れてー	岩出町立上岩出小学校.....	7
命の尊さを実感を持って理解できるようにするために			
興味の喚起と動機付けの工夫		紀の川市立安楽川小学校.....	9
道徳資料を子どもの心に響かせるために			
児童の実態から指導の工夫を考えるー		広川町立広小学校.....	11
心に響く資料を生かして			
動きのある板書やワークシートの活用		岩出町立上岩出小学校.....	13
心に響く資料を生かして		みなべ町立南部小学校.....	15
地域の教材を資料として「 苦学力行の人	飯塚淳一郎」		
討論を核にした道徳授業づくり			
話し合いの工夫と支援の言葉かけや発問の工夫		有田川町立吉備中学校.....	17
ふるさとの先人から学ぶ			
児童生徒の心に響く教材の活用・開発		日高川町立丹生中学校.....	19
共有化された（される）体験にもとづく道徳の時間			
ゲストティーチャーによる「郷土愛」		紀美野町立野上中学校.....	21

道徳の時間Q & A

Q 子どもが生き生きと学習する道徳の時間にするにはどうすればよいですか？

A 「道徳の授業は難しい」という声をよく耳にします。評価はあっても評定のない授業。子どもがのってくれば、指導者にとってこれほど楽しい授業はないかもしれません。

子どもが生き生きと活動し、人間としての生き方について深く考えようとした授業には、いくつかの共通点があります。

指導者ばかりが話しすぎる授業

転換していくことが大切

子どもが主役で、言いたい、聞きたい、考えたいと思える授業

道徳における「わかる授業」とは

自分がわかる...気づいていない自分の感じ方・考え方などがわかる

他者がわかる...自分以外の人の感じ方・考え方・生き方などがわかる

道徳的価値がわかる...人間として生きていくうえで大切なことがわかる

わかる授業の創造

か

感動・葛藤がある
(価値葛藤・心理葛藤)

き

共感・疑問・気づき・
驚きがある

く

食い込みがある
(なぜ?どのように?)
を問う教師)

け

経験、体験を生かす

こ

交流する
(多様な考え、感じ方)

聞ける・言える・考えられる集団

考えたくなる

Q 道徳の時間をどのように展開すればよいのでしょうか。

A 道徳の時間の指導には、決まった形はありませんが、一般的には、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。しかし、固定化、形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫が必要です。

道徳の時間の構想

- 1 ねらいを検討する
- 2 指導の要点を明確にする
- 3 資料を吟味する
- 4 全体の展開を考える
- 5 一人ひとりを生かす方法を考える
- 6 事前・事後指導とのかかわりを押さえる

展開を考える手順の例

- 1 中心発問を考える
- 2 中心発問を生かすための前後の発問を考える
- 3 自分自身を見つめる発問を考える
- 4 導入について考える
- 5 終末について考える

	学 習 活 動	留 意 点
導 入	道徳的価値への方向づけの段階	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的価値に意識を向ける。 ・ 主題に対する興味や関心を高める。 ・ 学習に向かう雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的価値が自分とかかわりがあるという意識をもたせる。 ・ 考えるための視点をもたせる。
展 開	中心的な資料によって道徳的価値についての自覚を深める段階	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の中の登場人物をとおして、道徳的価値を追求し、把握する。 ・ 多様な考え方、感じ方に出会う。 ・ 自分の生活、生き方、在り方を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な考え方、感じ方を引き出すための発問を行う。 ・ 登場人物に同化させ自分の考え方、感じ方を表現できるようにする。 ・ 自分自身を自覚させるようにする。
終 末	道徳的価値に対する考えや思いをまとめたり、今後につないだりする段階	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的価値をたしかめ、整理し、まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 望ましい行為への決意表明などを行わないようにする。

Q 一人ひとりを大切にする授業とは？

A 道徳の時間で行われる道徳ノートやワークシートなどへの書く活動は、子どもの欲求や願いが映し出されたものです。そこからとらえた様子は、授業中の個別の助言や話し合いなどに生かすことができます。

また、道徳の時間以外にも子どもは自分の心情などを作文や日記などに綴っています。それを担任が読み、コメントを書き込むことも多いはずです。その中から「これだ」と思ったものを手元に残しておき、授業の導入や終末、展開に生かすことができます。一人ひとりを大切にしている担任の姿は、子どもにも伝わります。

Q 子どもの思考や話し合いを深める中心発問の工夫は？

A 中心発問（資料での話し合いにおける中心的な発問）は授業で最も子どもに考えさせたい発問です。この話し合いには、十分に時間をかけるようにし、子ども一人ひとりに考えさせ、多様な考えを交えることにより、子ども同士が共感しあったり、対立したり、自分の考えを修正したりして学び合うことができるようにしましょう。

（例）資料中の副詞・副詞句に留意して発問を構成する

夕焼けの光の中で、祖母の背中は幾分小さくなったように見えた。ぼくは、だまって祖母と並んで草取りを始めた。

「おばあちゃん、きれいになったね」

祖母は、にっこりとうなずいた。

〔「一冊のノート」（文部省 道徳教育推進資料4 平成6年）〕

中心発問例

どうして祖母の背中が「幾分小さくなったように」見えたのだろう。そして、「だまって祖母と並んだ」ぼくの思いはなんだろう。

ポイント

副詞・副詞句を尋ねることにより、心情を押さえながら、しかも直接心情を尋ねる発問よりも多様な子どもの意見が期待できます。

中心発問にふさわしい副詞・副詞句は多くは最後から数行前にあります。

「～の気持ちはどうか」と心情を問うことを繰り返すすぎると、授業が平板になってしまいます。

基本発問が多くなりすぎると、教師が授業を引っぱってしまうことになります。

Q 道徳の時間に体験活動を生かすとはどういうことですか？

- A 道徳の時間に体験活動を生かすとは、道徳の時間と体験活動の関連を図ることであり、道徳の時間に体験活動そのものを行うことではありません。日常の道徳の時間の中で、体験活動と意図的な関連を図ることが有効な場合について取り組むことが大切です。

道徳の時間と体験活動の関連を図る方法

ア 体験活動から道徳の時間へ

例： 高齢者施設での交流体験の後、「マザー＝テレサ」などの資料を用いた授業を行う。

イ 道徳の時間から体験活動へ

例： 愛校心にかかわる主題の学習後、子どもたちが自発的に学校のための美化活動やあいさつ運動を始める。

ウ 体験活動と道徳の時間を同じ時期に進める

例： 自然に関する調査活動を進めているときに、「尾瀬を守る」などの資料を使って道徳の授業を進める。

道徳の授業の中で体験を生かすポイント

ア 体験したときの気持ちなどを効果的に引き出す発問を工夫する

例： クリーン活動をしてどんなことを感じただろう。

イ 体験したときの気持ちなどを重ねやすい資料を使って授業で活用する

例： みんなは、学校や地域のためにどんなことができているだろう。

ウ 体験したときの気持ちなどを引き出す表現活動を充実する

例： 役割演技や動作化など

エ 実感を高めるための模擬体験をする

例： アイマスク体験や車いす体験などの模擬体験



Q 魅力的な資料とは？

A 道徳の時間では、子どもが資料に出会い、資料中の登場人物への共感などを通して価値の肉面的な自覚を深めていきます。

資料が子どもにとって魅力的なものであり、教師の心にも響くものであるかどうか、道徳の時間の成功のカギとなります。

魅力的な資料とは？

- ・興味・関心や発達に応じ、親近感がもてるもの
- ・感性に訴え、感動性の豊かなもの
- ・意外性や問題性を含み、子どもが自分の課題としてとらえることができるもの
- ・主人公の迷い、弱さ、葛藤、生きる喜びが浮き彫りになっているもの
- ・やってみよう、調べてみようとする意欲を引き出し、体験や学習がひろがるもの

Q 「心のノート」は、どのように使ったらいいの？

A 心のノートは、いつでも、どこでも、なんどでも使うことができます。肩の力を抜いて楽しみながら、心のノートを生かすように努めましょう。

全教職員が共通の方針をもって、学年・学級で創意工夫をしていきましょう。



あさがおの花が咲いたよ。
心のノートに書いておこう。

今日は楽しかったことが
あったよ。
心のアルバムのページに
書いておこう。



子ども

いつでも ...授業中、朝や帰りの時間、休み時間、帰宅後などに
どこでも ...教室で、学校の中で、家庭で、ときに地域の人といっしょに
なんどでも ...好きなページを繰り返し見て、同じところに書き重ねて

教師

きめつけない...子どもの使い方について教師の数値的な評価をしない
とりこまない...教師の手の内で活用するだけの生かし方はしない
おしつけない...生徒（生活）指導上の対処的な指導として教え込まない

子どもの活用を広げるために、心がけておきたいこと

- ・道徳の時間の一部に織り込む場合とオリエンテーション的な機会やまとめの機会を
- ・心の対話ができる集団づくりと一人ひとりのプライバシーへの配慮を
- ・一人ひとりが違う個性的なノートになるような援助を



道徳の時間の実践的指導力を高めるための着眼点

1 資料提示の工夫...想像、共感をかき立て、子どもを道徳資料の世界へ引き込む

方法例

(P9.11.15.19.21)

紙芝居などを用いる方法 パネルシアターによる方法
テレビやプロジェクター、録音等の視聴覚機器を生かす方法
補助資料（実物や写真、効果音など）を生かす方法
ゲストティーチャーなどの参画を得る方法 など

2 発問の工夫...子どもの心を動かし、多様な考えを引き出す

効果的な発問

(P11.17)

子どものこだわりや問題意識が生かされ、生み出される発問
発言の自由度があり、個性的な考えが生かされ、引き出される発問
考える必然性があり、心が揺さぶられる発問 など

3 話し合いの工夫...子ども相互に多様な考えを学び合い、深め合う

対応の工夫例

(P17)

心の様子や考えの立場を色やグラフに表す、類別するなどして、視覚的にとらえるようにする
多様な意見、きっかけとなる意見を引き出すために意図的に指名する

場作りの例

(P18)

座席配置で立場を鮮明にする工夫 二人組での対話
グループでの話し合い など

4 表現活動の工夫...一人ひとりの考えを引き出し、一層深める

方法例

(P7.19)

役割演技...即興的に役割を演じ深める方法
動作化...動きをまねして実感的な理解を深める方法
疑似体験活動...セットされた条件の中での追体験的な活動
劇化...せりふや演技のまねをして状況や心情を感じ取る方法
人形劇...人形や紙人形を持って演じながら語る方法

5 書く活動の工夫...個別化の中で個性的な考えを深める

方法例

(P13.15.19.21)

吹き出しをつけたワークシート 自分のことを伝える手紙
絵や記号などでかく形式 自己評価欄を表した形式

6 板書の工夫...子どもの思考を深める共通の「ノート」として生かす

方法例

(P13)

話し合いの中心部分を取り上げて構成 子どもが参画できる構成
意見の違いが捉えやすく類別、類型化され、示された構成
場面絵、心情図や心情曲線などを生かした構成 など

(P)は、平成17年度文部科学省指定「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」指定校において取り組んだ事例です。

心に響く資料を生かして

- 役割演技を取り入れて - (第1学年)

岩出町立上岩出小学校

主題名 命のはかなさ大切さ 3-(2) 生命尊重

資料 『はるのゆきだるま』 (出典) 絵本 はるのゆきだるま 偕成社

あらすじ

本資料は、山の中でずっとひとりぼっちだったゆきだるまが、ある日、動物たちと出会い、見たことのない春のおみやげに胸をふくらませる。しかし、動物たちは、時間を忘れるほど春を楽しみ、春のおみやげを持って戻ったとき、ゆきだるまは死んでいた。

指導の工夫



役割演技を取り入れて

役割演技は、子どもたちの心が一番動かされると予想する場面を取り入れた。そこは、動物たちが、時間を忘れるほど春を楽しみ、春のおみやげを持って戻ったとき、ゆきだるまは死んでいたという場面と、再びゆきだるまと動物たちが出会う場面である。

本時のねらい

ゆきだるまや動物たちの気持ちを考えることを通して、命のはかなさ、大切さについて気付くことができる。

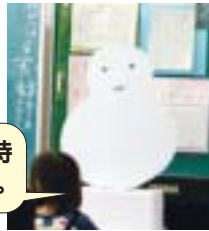
展開の概要(一部)

	学習活動、発問、児童の反応	道徳の時間の充実に関すること
導入	学習活動 ゆきだるまについて話し合う。 発問 ゆきだるまを見たことがありますか？	工夫1 場面を想像しやすいように、紙芝居や小道具を使って資料を提示する。
展開	学習活動 ゆきだるまと動物たちが心を通わせていく様子を発表し合い、役割演技をする。 発問 ゆきだるまが待っていることを思い出し、急いで山へ駆け上がる時の動物たちはどんな気持ちでしょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・早く行かなくっちゃ。 ・がんばろう。とけてしまうよ。 ・まだゆきだるまさんがいるかな。 </div> 発問 とけてしまったゆきだるまを見て動物たちはどう思ったでしょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・おくれてごめんね。 ・ずっと待っていてくれてありがとう。 ・春の花をもってきたのになあ。 ・人が死んでしまったみたい。 </div>	工夫2 「ゆきだるまがとけてしまっていた」場面を提示し、ゆきだるまへの思いを出させ、命のはかなさや、大切さに気付かせるために役割演技をする。  工夫3 ゆきだるまを囲んで一人ずつ花を置く場面を役割演技することで、動物たちの気持ちを考える。 

指導の工夫例

工夫1

小道具の活用



雪だるまさん、ずっと待
っていてくれるんだね。



雪だるまさんの形に花がさ
いていたよ。



わたしは、うさぎさん
になって、考えてみるよ。

ゆきだるまさんに花
を届けよう。

子どもたちが、資料の世界にひたり、登場人物になりきって役割演技をするためには、雰囲気作りが必要となる。ゆきだるまの姿や動物のお面、花束などを使うことで、より実感を伴って考えることができる。



早く、早く、急いでよ。

工夫2・工夫3 役割演技を取り入れる方法



早く行かなくてごめんね。



ずっとまってくれたんだ
ね、ありがとう。



ぼくたちは、雪だるまさん
の分まで勉強するよ。



指導の工夫について

役割演技では、登場人物になりきり、雪だるまがなくなったあとの動物たちの気持ちの高まりを考えることができた。

また、役割演技をしていない子どもも注意深く見ながら自分なりの思いをもち、自由な雰囲気の中で、のびのびと発言することができた。

役割演技を効果的に行う工夫

役割演技は、自己を特定の役割に投入して演技したり、役割交代をすることにより、他人の立場を理解すると同時に、自分の立場を自覚して自らを律したり、仲間との相互理解や信頼感を深めたりするための効果的な指導方法である。

その方法としては、指導者が演者を指名して演じさせる方法、隣の子ども同士でペアを組ませて演じさせる方法、全員に登場人物になりきらせて動作化する方法、指導者と演者とが対話しながら気持ちを引き出す方法などが考えられる。

また、お面をかぶったり、花束を持って演じさせることで、より登場人物の気持ちに迫らせることができ、特に低学年には有効な方法である。

命の尊さを実感を持って理解できるようにするために - 興味の喚起と動機付けの工夫 - (第2学年)

紀の川市立安楽川小学校

主題名 生きている 3-(2) 生命尊重

資料 『ふしぎな音』 (出典) 2年生のどうとく 文溪堂

あらすじ

本資料では、児童が学校医の先生から、心臓の話や命には限りがあることを聞く。そして実際に自分たちで聴診器を使って心臓の音を聴き、生きていることを実感するとともに、生きていることの喜びを感じていくという話である。本時では、この資料と同じ体験をさせることにした。

指導の工夫

興味の喚起と動機付け

導入 実際に録音した心臓の音が何の音なのか興味をもたせるために、クイズ形式を取り入れた。これは、短時間に本時への興味付けをするためである。

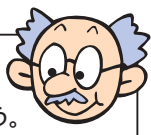
展開 黒板には本校の学校医の写真を掲示した。そして、実際に録音した学校医による命にかかわる話を聞かせた。毎年診てもらっている先生の話は、児童も受け入れやすく、話の内容にも興味をもつと考えた。続いて、ふしぎな音、すなわち心臓の音を実際に聴診器や心音拡大器を使って聴く活動を行った。自分や友達の元気よく動いている心臓の音を聴くことで「生きている」という実感をもたせることができた。

終末 「手のひらを太陽に」の歌詞には、児童の描いた人物の絵を貼り黒板に掲示した。歌詞に人物の絵を貼ることで「みんな生きている」という実感をもたせるとともに、命に対する関心を高め元気よく歌うことができた。

本時のねらい

心臓の音を実際に聴くことにより、生きていることを実感させ、命を大切にしようとする心情を育てる。

展開の概要

	学習活動、発問、児童の反応	道徳の時間の充実に関すること
導入	学習活動 心臓の音を聴きクイズをする。 発問 この音は何の音でしょう。	工夫1 録音された心臓の音に興味をもたせるために、クイズ形式を取り入れる。
展開	学習活動 録音した学校医の命に関する話を聞き、話し合う。 (校医による3つの話) <ul style="list-style-type: none"> ・命には限りがある。 ・心臓は休まず動いている。 ・3分間止まったら死んでしまう。  発問 お話を聞いてどんな気持ちになりましたか。 学習活動 聴診器や心音拡大器で心臓の音を聴いた後、話し合う。 発問 心臓の音を聴いてどんな気持ちになりましたか。 発問 生きているからどんなことができるのでしょうか。	工夫2 学校医による命に関する話を録音し、それを児童に聞かせる。また、学校医の顔写真を掲示し、臨場感をもたせる。 工夫3 実際に聴診器で自分の心臓の音を聴き、心音拡大器により友達の心音も聴けるようにする。

終 末	学習活動 「手のひらを太陽に」を歌う。 感想を書く。	工夫 4 * 児童の描いた絵を貼った歌詞を掲 示する。
--------	-------------------------------	------------------------------------------

指導の工夫例

工夫 1 録音を生かす方法

導入では心臓の音に興味を持ち、短時間に本時への期待と関心がもてるよう、子どもたちの好きなクイズ形式を取り入れた。子どもたちは真剣に聞き、音当てクイズを楽しみながら発表できた。また、社会見学で犬の心臓の音を聴いた経験を発表するなど、本時への動機付けになった。

工夫 2 録音と補助資料を生かす方法



命にかかわる3つの話を聞く場面では、自分とのかかわりで捉えられるように学校医の写真と録音した声を登場させた。自分が診てもらったことのある先生なので、親しみと興味をもって聞き入っていた。3つの話を短冊に毛筆で書き掲示したことは、子どもにとって見やすいものとなり、視覚に訴えることができた。

工夫 3 視聴覚機器を取り入れる方法



命にかかわる話を聞いたあと、実際に聴診器で自分の心臓の音を聴く活動を行った。初めての体験で、神妙な面持ちで聴き、聴こえたときはすごくうれしそうだった。「きこえた」「うれしい」「生きている」と喜びを表現した。自ら体験することの大切さを教師も実感した。

みんな生きていることを実感させるため、心音拡大器を使って友達の心音を聴かせた。「自分と同じかな」「どんな音かな」「大きな音だ」「ぼくと同じ音だ」と子どもたちは身を乗りだして聴いていた。

工夫 4 終末の工夫



「手のひらを太陽に」を歌う場面では、初めて歌うため歌詞を掲示した。歌詞には、あらかじめ図工の時間に描いた自画像と自分の好きな動物の絵を貼っておいた。歌詞のように、「みんな生きている。生きているから楽しいんだ。ミミズだって」という認識につながったからである。子どもたちは自然と手をつなぎ、元気よく、感情豊かに歌っていた。

指導の工夫について

興味の喚起と動機付けの工夫

学年当初から総合単元的に「生きているってうれしいな」の学習をしてきている。子どもたちは自らの思いをもち、主体的に学習を進めてきた。本時では、子どもたちの好きなクイズ形式での発問、学校医の写真と録音での登場、聴診器での体験、子どもたちも参加する掲示等の工夫は、興味が喚起され、意欲をもって楽しく学習することができた。

道徳資料を子どもの心に響かせるために

- 児童の実態から指導の工夫を考える - (第4学年)

広川町立広小学校

主題名 地域を守った先人 4 - (5) 郷土愛
資 料 『いなむらの火』 (出典) ふるさとわかやまの心 和歌山県教育委員会

あらすじ

大地震の後、庄屋儀兵衛は、津波の来襲に気づいた。儀兵衛は大切な稲を積み上げた「いなむら」に火を放って、高台に村人を導き、多くの村人の命を救った。

指導の工夫

導 入 津波を経験していない児童に、津波を実感的にとらえさせるために、津波のビデオや被害の予想図を見せ、津波についての感想を発表させた。

資料の提示 読み物としての提示だけでなく、紙芝居を用いることで、主人公「儀兵衛」の置かれた状況のイメージ化を容易にした。

発問の工夫 主人公の感じ方・考え方に共感させるために、「...の時の主人公の気持ちは？」と発問するのではなく、気持ちを表出する主人公の視線などを取り上げ発問した。

ゲストティーチャーの導入

価値認識 郷土愛 を深めるために、この資料に対するゲストティーチャーの思いを聞かせた。

本時のねらい

地域の人々の生命を救った濱口梧陵に感謝の気持ちをもつとともに、地域を愛する心情を育てる。

展開の概要

	学習活動、発問、児童の反応	道徳の時間の充実に関すること
導 入	学習活動 ビデオを見て話し合う。 発 問 津波についてどう思うか。 ・私の家も流される、こわいな。 ・人も家も流されてしまうな。 ・たくさんの命が奪われる。	工夫1 安政の大津波の時、被害の及んだ場所を示す「地図」を併せて提示する。 津波の怖さを感じとらせ、資料への導入とする。
展 開	学習活動 資料「いなむらの火」を読み話し合う。 発問(1) いなむらに火をつけた時の儀兵衛の気持ちはどうか。 ・何とかして津波の来襲を村人に知らせたい。 ・暗い中でこれしかない。・米よりも人の命のほうが大切。 ・米のほうが大切。どうしよう。 発問(2) 儀兵衛は高台から何を見ていたか。 ・村人たちの列 ・海 (補助発問) そのときの気持ちはどうか。 ・早く高台に来てくれ。・残した人はいないか。 ・早くしないと津波が来る。 発問(3) 「助かったんだ。」という村人の声を聞いたときの儀兵衛の気持ちはどうか。 ・助かってよかった。・うれしい。 ・みんな本当に来ているか。・もう一度人数を。 発問(4) 燃え続ける「いなむらの火」を見つめながら、村人はどんなことを思ったか。 ・あの津波にのみ込まれていたら。 ・この火が我々を救ってくれたんだ。 ・儀兵衛さんのおかげだ。 ・家が流されてしまったけど、命のほうが大切だ。 学習活動 ゲストティーチャーからの話を聞く。 ・このお話を多くの人が学んだのだな。 ・大切にしていきたい。	工夫2 場面ごとに紙芝居を用いて読み聞かせをする。 村人の津波の来襲を知らないことに戸惑う儀兵衛の様子と葛藤(米 村人の生命)を通していなむらに火をつける儀兵衛の心の動きをとらえる。 稲の束を見せ、米の価値(大切な食べ物・年貢・米作りの苦労)を話す。 工夫3 儀兵衛が人々ばかりではなく、海にも目をやり津波の来襲に気をもむ緊迫感をとらえさせるために、気持ちではなく、儀兵衛の視線を問う発問にする。 村人の声に安堵する儀兵衛の気持ちをとらえさせる。 村人の立場になり命が助かった喜びをとらえさせるとともに、儀兵衛への感謝の気持ちをとりえさせたい。 *道徳ノートに書かせる。 工夫4 ゲストティーチャー自身の体験をもとに「いなむらの火」に対する思いを語っていただく。
終 末	学習活動 教師の説話を聞く。	ゲストティーチャーの話をもとに簡単に。

指導の工夫例

工夫1 視聴覚機器を取り入れる方法

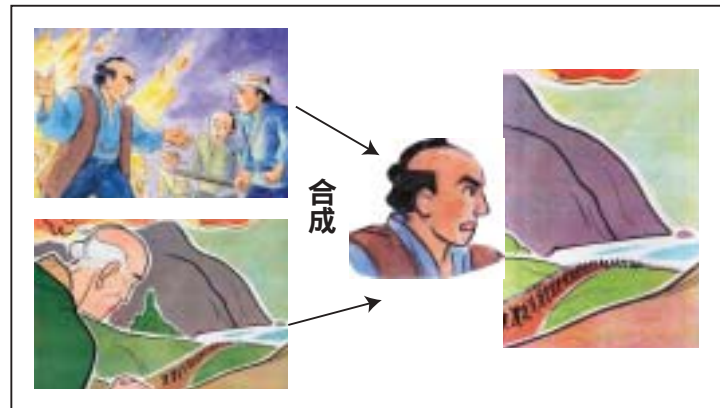
指導案では津波そのものを児童に実感的につかませるために、ビデオを取り入れた。

また、児童の住む町に安政南海大地震・昭和南海地震の時の津波による被害を受けた場所を示す地図も見せることにより、「私の家も被害にあった。こわい。」などと津波の被害を身近に切実感をもってとらえさせ、資料への導入とすることができた。



工夫2 紙芝居を用いる方法

本資料は、文を読ませただけでも、その物語の概要をとらえさせることができるだろうが、儀兵衛や村人の置かれた状況や表情をつかませるために、紙芝居を使用した。また、発問（儀兵衛が高台から村人と海に目をやるときの気持ち）する際にも、2社の紙芝居の絵を合成して提示することで、子どもたちには状況をより確かにとらえ、儀兵衛の気持ち（緊迫感）に迫れたのではないかと考える。



工夫3 発問の工夫

道徳の時間の発問は、とすると、「したときのAの気持ちは？」と子どもたちに問いかけることが多い。問われる子どもたちにとっては、「またか？」となりがち。

人間は、気持ちを身体どこかで表現することが多い。ここでは「儀兵衛は高台から何を見ていたのでしょうか。」と問うことで、子どもたちは、「村人」と「海」を挙げ、両者を見つめる儀兵衛の気持ちをとらえることができた。

「高台に登ってくる村人の数を数えていたときの儀兵衛の気持ちは？」
と発問したとき（これまでの発問）

- ・残った人はいないかという気持ちだった。
- ・みんな本当に高台に来ているか。

儀兵衛は高台から何を見ていたでしょうか。
（今回の発問）

- ・村人の列の一番最後を見て、その人たちが、津波に襲われないか心配する気持ちでいっぱいだった。
- ・もう時間はない。はやくはやく。

工夫4（ゲストティーチャーの参画による方法）

資料を通して儀兵衛に感動した子どもたち。さらにその感動を高めたのはゲストティーチャーが語る昭和南海大地震の時の津波の体験だった。

「私がちょうどみなさん方と同じ小学校4年生の時でした。（中略）学校で習った『いなむらの火』のことを思い出して高台に向かって逃げました。（中略）これからも『いなむらの火』を大切にしていきたい。皆さん方も大切にしてくださいね。」



指導の工夫について

道徳の時間には、資料を通して「人間ってすばらしい。」ということ子どもたちと共に学びたいと思う。しかし、その思いを子どもたちと共有することは容易なことではない。

本資料を扱うに当たっても、資料一読後、「すばらしい資料だけれど子どもたちの実態（体験・理解力等）から難しい。」と考えた。ストーリーの把握を生き生きさせるためのビデオ・地図・紙芝居の併用、主人公の思いを深めるための発問の工夫を取り入れることにより、資料を共有することができた。それにより増して子どもたちの「いなむらの火」に対する思いを深くしたのは、ゲストティーチャーから語っていただいた体験談であった。

心に響く資料を生かして

- 動きのある板書やワークシートの活用 - (第6学年)

岩出町立上岩出小学校

主題名 よりよい生き方を かがやく命 3-(2) 生命尊重
資 料 『葉っぱのフレディ』 (出典) 「生きる力」大阪書籍

あらすじ

本資料は、- 命の旅 - という副題がつけられている。春に生まれた葉が、夏に向けて生長し、秋に紅葉し、冬に枯れる。そして、また春に生まれる。という命の循環を描いた物語である。

指導の工夫

視覚に訴えるワークシートの活用

ワークシートを葉っぱ型にすることで、自分のイメージを言葉や色で表現しやすくなると考えた。また、全員のワークシートを掲示し、一つの大きな木を作り上げることで、各自の思いが認められ、学習に対する参加意識と、みんなで作り上げる喜びを実感することになる。そこには、友だちの考えに触れさせたいという指導者の願いも込められている。

動きのある板書の工夫

板書は、1時間の授業の足跡である。特に導入部分では、葉っぱ型のワークシートを掲示し、1枚ずつ散っていく様子を表す。これは、子どもたちの視覚に訴え、学習意欲を高めることにつながる。また、色チョークや板書位置を工夫し、キーワードや子どもの意識の流れをより分かりやすくまとめる工夫を行った。

本時のねらい

命の大切さについての意識を高めるとともに、自分の生活を振り返り、よりよく生き、ともに高まろうとする心情を養う。

展開の概要(一部)

	学習活動、発問、児童の反応	道徳の時間の充実に関すること
導 入	学習活動 資料に出合ったあと、ワークシートに心に残った場面を書き込み、葉を描き、掲示する。 発 問 自分がいいなと思ったところをワークシートに書き、イメージした色をつけましょう。	工夫1 葉っぱ型のワークシートを配布し、心に残った場面を書き、イメージした色で表現させる。 工夫2 全員のワークシートで一つの大きな木を作る。
展 開	学習活動 心に残った場面を発表する。 ダニエルの発言から、成長し変わっていく自分について考える。 発 問 ダニエルは、「世界はどうしつづけている」と言っているでしょう。 <div data-bbox="252 1682 735 1794"> <ul style="list-style-type: none"> ・変化しつづけている。 ・変化しないものは1つもない。 ・変化することは自然なことだ。 </div>	工夫3 心に残った場面を発表し、フレディとダニエルを残して下に葉っぱを散らしていく。 工夫4 子どもの意識を整理するために、発問ごとに板書する位置を割り振る。 工夫5 本時のねらいを明確にし、子どもの意識を高めるために、キーワードとなる言葉を色チョークで板書する。
開	発 問 フレディは初めて木の全体を見てどんなことを思ったでしょう。 <div data-bbox="252 1899 735 2033"> <ul style="list-style-type: none"> ・がっしりしてたくましい木。 ・命という言葉思い出した。 ・命は永遠に生きている。 ・いつまでも生きているにちがいない。 </div>	

指導の工夫例

工夫1 葉型のワークシートを活用

ぼくの心に残った場面はここだよ。
葉っぱの色は、この色にしよう。



ワークシートを葉っぱ型にすることで、子どもに興味、関心をもたせ資料を読む姿勢が意欲的になると考えた。

心に残った場面を、言葉(文字)だけでなく色をつけることで、自分らしさを表現することになると考えた。

工夫2 子どもが参画する板書の工夫



みんなで大きな木ができたよ。



私の葉っぱは、あそこにあるよ。
あの子の葉っぱの色、きれいだな。

全員の感想を書いたワークシートを黒板に貼り、1つの大きな木を作り上げた。このことによって子どもたちは、「自分の思いが認められた」「自分もあそこにいるんだ」という参加意識をもち、友だちの考えに触れることができた。

工夫3 子どもが参画する板書の工夫



ぼくの気に入った場面は...
ここに散っていったよ。

ダニエルとフレディだけが
残ったよ。



物語同様、自分の葉っぱが1枚ずつ散っていくことで、より共感的に考えることができた。また、そこから自分たちの今の生活について考えを広められるようになった。

工夫4 子どもの意識を考えた板書位置の工夫

工夫5 色チョークを使ってキーワードの明確化



指導の工夫について

ワークシートは、子どもの考えを書くだけでなく、形や色を工夫することにより、子どもの考えをより引き出すものとなる。本授業では、イメージした色を塗ることで、言葉では表すことのできない気持ちを表現することができた。

また、子どもの意識をより高める工夫の一つは、全員のワークシートを黒板に掲示し、クラスで一つの木を作ったことである。そこから、子どもたちは共生しているという思いをもち、自分もあの中の一人なんだという存在感を自覚させることができた。

板書は、子どもの意識の足跡である。ワークシートが1枚ずつ散っていく様子は、子どもたちの視覚に訴え、学習意欲を高めるものとなった。また、色チョークの使用や板書位置の工夫は、キーワードや子どもの意識の流れをより分かりやすくまとめることにつながった。

板書は、3つに分けて活用した。黒板の右側は資料について、左側は自分たちの生活との関わりについて、中央は主題となる言葉について配置した。これは1時間の子どもの意識を整理・振り返ることに役立った。また、色チョークの使用によって、キーワードがより明確になった。

心に響く資料を生かして

地域の教材を資料として「- 苦学力行の人 - 飯塚淳一郎」(第6学年)

みなべ町立南部小学校

主題名 「努力と継続」 1-(2) 勤勉努力

資料 『飯塚淳一郎物語』 (出典) 「- 苦学力行の人 - 飯塚淳一郎」

文：山崎 進 絵：畑崎 龍定

あらすじ

「これはおもしろい。英語ができるようになれば、世界の人とも話し合える。」

飯塚淳一郎は、新しく出会った英語に興味をもったことから、広い世界へのあこがれを強くし、18歳の時に渡米し幾多の困難にもくじけることなく、なおも向学心を持ち、働きながら勉学を重ねて、後に大阪歯科大学の学長をつとめた飯塚淳一郎氏の努力の様を編んだ話である。

指導の工夫

地域の教材を資料として

地域の教材を資料として用いることによって、みなべ町出身の主人公を身近な存在として感じるとともに、その姿を通してより高い目標を立て、希望と勇気を持って努力しつづけることが大切だという心情を高めることにつながると考え、地域教材を取り入れた。

書く活動(話し合いを活発にするために)

書く活動は、子どもの思考を活発にすると考える。書いたことをもとにした話し合いは、考えを深めることになる。本時では、「ひとことカード」を用いる。このカードは、自分の考えや思いを一言で表すものである。子どもは、「一言で表せばいいんだ」と気持ちを楽しんで書くことができる。短い表現は、気持ちが凝縮されたものとなり、発表もしやすくなる。「ひとことカード」は、発問のあとに用いる。主発問のあとには、ワークシートに自分の考えや思いを自由に表現させ、ねらいに迫る手だてとした。

本時のねらい

目標に向かって努力しようとする心情を高める。

展開の概要

	学習活動、発問、児童の反応	道徳の時間の充実に関すること
導入	学習活動 英語のカセットテープを聴く。 発問 これは何語だと思いますか。	
展開	学習活動 「飯塚淳一郎物語」を読んで話し合う。 発問 主人公はどんな人でしょう。 ・みなべ町出身 ・好奇心が強い ・読書が好き ・英語に興味がある 発問 船員たちと英語で会話できなかった淳一郎さんはどんな気持ちだったでしょう。 ・くやしい ・なぜだろう ・自分の英語が通用しない 発問 アメリカでの仕事がつらくてもがんばった淳一郎さんはどんな気持ちだったでしょう。 ・あきらめずに努力しよう ・好きなことのために頑張ろう ・まけないぞ	工夫1 自分達の住む地域の先輩の話であることに気づき、資料への興味付けをする。 ・今まで努力してきたことが通用しなかった悔しさをおさえる。 工夫2 「ひとことカード」に自分の考えを書き、全員が自分の考えをもつことができるようにする。 ・苦しくてもなげださず努力しつづけてようとする主人公の心情をおさえる。 工夫3 ひとことカードを用い、話し合いの手助けとする。 工夫4 ワークシートに自分の思いをまとめる。 ・努力してきたことが達成できてうれしい。 ・苦しいこともあったけど努力してきたことが達成でき、がんばってよかった。 ・これからも負けずに挑戦していこう。
終末	学習活動 心のノートP14の詩を読む。	・授業の余韻が残るように。

指導の工夫例

工夫1 地域の教材を資料として活用



晩稲出身の人らしいぞ。何をした人だろうなあ。紙芝居を描いた畑崎さんって、かしまタイムにお話ししてくださった、畑崎龍定先生なのかなあ？

私たちの班が、かしまタイムでおじゃましたとき話してくださったお話だわ。

かしまタイム＝総合的な学習の時間

自分たちの町の先輩の生き様を資料として道徳の時間に取り入れた。児童は、興味をもって資料を受け止め、より心に響く道徳の時間の学習が展開できた。児童が意欲的に考え、主体的に話し合える授業が展開できたのは、地域の先輩を主人公にした紙芝居があったからである。

工夫2・3 ひとことカード

目標が達成できたと感じた淳一郎さんはどんな気持ちだったでしょうか。



私が知っている英語なんかまだまだほんの少しだったんだな。くやしいな。もっともっと勉強がしたい。



一度やろうて決めたんや。絶対あきらめはせえへん。どんなにつらくてもあきらめへん。

工夫4 ワークシート

あきらめずにがんばってきてよかった。大好きな英語を、とくいな英語にできてうれしい。アメリカの友達もたくさんできたし、英語がもっともっと好きになった。また、新しい目標を作ってもっとがんばろう。
(女子)

よくつらい事にたえてきたなと思う。何度かくじけそうになったけど、目標が達成できてうれしい。今度は別の目標を作ってチャレンジしたい。
(男子)

ヤッター。英語が話せるようになった。今まで努力したかいがあった。今度は、次の目標に向かってがんばろう。英語が話せたのもみんなのおかげだ。
(男子)

やっぱり、最後までやったかいがあった。どんなにつらくても最後まであきらめへんかったら、きっとその夢がかなうんや。
(女子)

ひとことカードに自分の思いを書いて話し合いを進めることができた。また、子どもたちは、主発問について、それぞれの思いをワークシートに書き込んだ。児童一人ひとりがじっくりと資料を振り返り、自分の思いをまとめることができた。そして、淳一郎が努力して、目標を達成できた喜びを共感することができた。さらに、ひとことカードやワークシートの記述したものは、授業を振り返り、授業を評価する手だてになるとともに、後の個別指導の資料として活用することができた。

指導の工夫について

道徳の時間のねらいを達成するための手がかりとなる「児童の心に響く資料」とは、児童自らが資料に興味・関心をもち、感動や共感を呼ぶものであり、内容が分かりやすいものでなくてはならない。そのためには、地域の資料を教材化したり、身近なニュース、出来事等幅広い資料の開発の工夫が必要である。また、資料からねらいとする価値を追求したり、自他の思いを交流したり、共有したりするなど、内容をより深める手だてとして「書く活動」を授業の中に位置づけて、効果的な授業展開を工夫することも大事である。

討論を核にした道徳授業づくり

- 話し合いの工夫と支援の言葉かけや発問の工夫 - (第1学年)

有田川町立吉備中学校

主題名 自他の尊重 2-(5)、役割と責任の自覚 4-(1)
 資料 『校内水泳大会』(一部を本校で改作して使用)
 (出典) 資料を生かしたジレンマ授業の方法 荒木紀幸 / 明治図書

あらすじ

前の学校で不登校だった裕子が転校してきて、ようやく登校できるようになった矢先のできごと。学級では校内水泳大会に向けてみんなで頑張っている。しかし裕子は水泳に出たくないと言い出した。大会は全員参加が原則なので、一人でも出ないと失格になる。生徒たちは裕子の状況や気持ちと学級としてのまとまりのはざまで揺れている。

指導の工夫

話し合いの工夫

討論に適した資料を使い、自分ならどの立場を支持するかを生徒に明確にさせた上で判断し理由を考えさせ、発表や討論を通して考えを深めていく。

支援の言葉かけや発問の工夫

授業の流れの中で、適切な支援の言葉かけや補助的な発問を行い、生徒の考えを深めていく。そして、なぜその立場なのか、各自に考えをもたせ全体の考えが高まれば、生徒相互の間に活発な討論がはじまる。

本時のねらい

思いやりの心を持ち、相手の立場に立って考え、クラスとしてどうすべきかを主体的に判断できる力を養う。

展開の概要

学習活動	道徳の時間の充実に関すること
学習活動 資料を読み、クラスの葛藤状況をつかむ。 学習活動 大会にはどんな条件があったのか。 裕子さんはどんな子か。 学習活動 裕子の言うことを認める方がいいか、認めない方がいいか、考えとその理由を書く。 認める せっかく学校に来られるようになったのだから、無理に出るように言って学校に来なくなるといけない。 認めない 「泳げない」はわがまま、クラスも迷惑。特別というわけにはいかない、等 学習活動 各自の意見・考えとその理由を発表する。 学習活動 みんなの意見を聞いて、改めて裕子の言うことを認める方がいいか、認めない方がいいか考える。	工夫1 大会の参加条件を確認させる発問を行う。 工夫2 書きたくない生徒への助言を行う。 工夫3 もう一度、発言をうながすことで注目させたい部分を協調する。 工夫4 よく考えている発言は、意図的に取り上げ、認める。 工夫5 もう一度注目させたり考えさせたりしたい場合、問い直しや切り返しをする。 工夫6 考えたり、対話をしたりするための指示を行う。 工夫7 生徒の発言が長い場合は、整理し確認する。

指導の工夫例 発問、指示助言の工夫

工夫1 自分の立場をもつための発問

発問「認める」という意見の人は、その判断理由を教えてください。

S「また、不登校になる…」
 「せっかくみんなと授業を受けられるのに…」



発問「認めない」という意見の人は、その判断理由を教えてください。

S「ここで裕子さんのわがままを認めると裕子さんがこの先困る」
 「いっしょに泳ぐ人がゆっくり泳いで自信をつけさせてあげる」

考察 全員に自分の立場をはっきりさせることにより、自分の考えや思いを自由に発言することができた。

工夫2 書きにくい生徒への助言

助言 だれの意見に近いですか。

考察 たくさんの意見から自分の意見と近いものがあることに気づかせ、自分の立場をはっきりさせることができた。

工夫3 注目させたい部分についてもう一度発言を促す発問

S「ルールだから参加しないといけない。泳ぎきったらみんなで『がんばったなあ』とほめ言葉を言ってあげる」

発問 クラスとしてのあり方を言ってくれたのですね。今言った、「泳ぎきったら…」とはどういうことですか。もう一度言ってください。

考察 もう一度発言を促すことで、注目させたい部分を強調することができた。また、互いの考えや立場の違いを認めたり、さらに考えを確かにしたりすることにつながった。



工夫4 立ち止まり、考えさせるための発問

発問 「認める」という意見の人は、「認めない」という意見を聞いて、なるほどとか、それは違うと思ったことがあれば言ってください。

考察 聞いている生徒は、この意見で立ち止まり、もう一度自分を振り返ることになった。また、発言した生徒は、問いかえされたことで自分の意見を確かなものにした。

S「みんな達成感とかいうけど、なんだかんだ優しくしてあげようとか言ったとしても、一部に『あいつ遅いんちがうん!』とか言ったり、バカにする人が絶対にいるからね。そんなことをしたら、また不登校になるきっかけになる。君が言ったように『まわりからおそくしてあげたら』といっても、そんなことをしたら、今まで一生懸命やってきた人も傷つくと思う。やる気を出させると言っても、何のために水泳大会をしているのかということになる。特例といっても、裕子さんはいじめを受けて不登校になったと思うから、他人と背負っているものが違うと思う。」



工夫5 考えを明確にするための問い返し

問い返し 「背負っているものが違う」とは？

工夫6 対話をするための指示

発問 2分ほど時間をあげます。周囲の人と話してもいいです。

考察 周囲の生徒同士が対話し、自分の考えを深め、互いの考えを認めることができた。その後の話し合いが活発になった。

指導の工夫について

授業の中で指導者は多くの補助発問や支援、助言を行うことは、生徒の細かな心の揺れを発言から感じ取る機会が増え、生徒の考えの深まりにつながる。また、きめ細やかな言葉がけは、考えがはっきりしなかったり、自分の考えがもてなかったりする生徒にも確かに考えをもつことになる。

考えが確かになっていない段階での発言は、十分整理されていないこともあり、発言が長くなる。それを教師が整理し、確認することで考えがはっきりしてくる。

「2分ほど時間をあげます」のように考えたり生徒同士が対話する時間を与えることは、自分の思いを表現することが苦手な生徒にも発言の機会が与えられ、互いの考えを認め合う時間になる。

ふるさとの先人から学ぶ

- 児童生徒の心に響く教材の活用・開発 - (第1学年)

日高川町立丹生中学校

主題名 「郷土愛」 4 - (8)

資 料 『丹生を見つめる目 森武楠』 (自作教材)

あらすじ 『丹生を見つめる目 森武楠』

本資料は、郷土を誇りに思い大切にしたいという心情や態度を育てるには、身近な地域に根ざした教材が必要であると考え、聞き取りや文献をもとに本校職員が作成した。

森武楠が郷土の発展を願い全財産である山林を村に寄付し、その収益金を基金として文化的な設備の整備や活動を行い人々に喜ばれたという前半と、誰にでも分け隔てなく接し、もめごとがあれば奔走し、若者を育てることに情熱を注いだ武楠の人物像を描いた後半との2部構成になっている。

指導の工夫**導入**

校長室に飾られている肖像画と、校庭に建つ銅像の写真を見せ、自分たちの身近な人物であることに気づかせ興味をもたせた。また、登場人物の顔を掲示することは資料を読みとる上で効果的である。

資料提示

長い資料を一気に読ませるのではなく、まず、寄付の事実と寄付を決断するまでの苦悩を読み取ったあと、後半の人物像の資料を提示することで、森武楠という人物への関心を持続させ、その郷土への思いに気づいていけるように工夫した。


ロールプレイ

学校を訪ねてきた人から森武楠について尋ねられるという場面を設定し、前に出て説明をする行為を通して、丹生の一員としての自覚を促した。また、授業に動きがでてメリハリがついた。

本時のねらい

森武楠の生き方に触れることで、郷土を愛し郷土に尽くした先人に尊敬と感謝の念を深め、郷土を愛する心を育てる。

展開の概要

	学習活動、発問、生徒の反応	道徳の時間の充実に関すること
導 入	学習活動 武楠の肖像画と校庭の銅像の写真を見せ、森武楠について学ぶことを知る。 発 問 この人物を知っていますか。	工夫1 身近な人物であるということで興味を喚起し、前に掲示しておく。
展	学習活動 武楠が何をした人なのか、その寄付によってどんなことが行われたかを知る。 発 問 森さんは寄付をしようと決断するまで、なぜ眠れないほど悩んだのでしょうか。 <div>・くらしに困る ・悪用されないか ・ご先祖様に申し訳ない</div>	工夫2 資料を前半後半の2段階に提示することで、武楠の人物像への興味を持続させる。後半は提示する前に発問し、課題意識を持って資料を読ませる。
開	学習活動 資料後半を読み、武楠の思いや地域の人々の思いを考える。 発 問 それほど悩みながらもあえて寄付しようと思ったのはなぜでしょう。 <div>・丹生村が好き ・みんなが楽しく暮らせるように ・丹生村の発展に貢献したい ・村の人に満足してほしい</div> 発 問 地域の人々はどのような思いで銅像を建てたのでしょうか。 <div>・感謝の気持ち ・神様のような人 ・えらい人やなあ ・おかげで平和な村になった ・丹生をずっと見守ってほしい</div>	工夫3 ワークシートに書くことで考えを深めさせる。 

共有化された(される)体験にもとづく道徳の時間 - ゲストティチャーによる「郷土愛」- (第3学年)

紀美野町立野上中学校

主題名 「郷土の先人からのメッセージ」 4-(8) 郷土愛
資 料 『野上町を愛する詩』 (野上中学校初代校長 吉田 敏 著)

資料について

詩は、校歌を作詞された初代校長がつくられた作品である。日頃、生徒は郷土への思いは口にはしないが、少なからず自分が住んでいる地域に対する愛情をもっているはずである。また、生徒たちが、郷土で育まれてきた文化や伝統に思いを寄せ、改めて野上町(現在紀美野町)という町をとらえ直すことで、郷土を愛する気持ちを膨らませてほしいという願いから、本地域・本校独自の題材を活用し教材化することにした。

指導の工夫

導入・終末の工夫

導入で学校生活にかかわった校歌を資料として取り上げた理由としては、歌詞の意味を考えることで地域をより身近なものとしてとらえ、みんなで共感し合うことができるのではないかと考えたからである。終末では、地域のゲストティーチャーに話をしていただいた。生徒たちに紀美野町の自然や環境のすばらしさを感じさせるために、地域のすばらしさを実感しながら生活されている地域の方から直接お話を伺うのが一番だと考えた。

総合的な学習の時間とのリンク

生徒たちは総合的な学習の時間で、1年次に地域の自然・産業・文化についての調査、地域の高齢者との交流、2年次には地域の方々との触れ合いを通じた職業体験学習を行ってきた。また、3年次には地域の生涯学習サークルの方々との交流学習を予定している。共有化された実体験と関連付けながら主題に迫ることで、有機的な心の揺さぶりが期待できると考えた。

視覚・聴覚を通して心情を揺さぶる

地域の風景や1・2年次での総合的な学習の時間の様子を写した写真、BGMや生徒全員による校歌の斉唱などを通して、個々の生徒がスムーズに情感から主題に関わり、自分の感じたことを表現できる雰囲気をつくることができた。

書く活動を取り入れる

自分の思いを一節で表すことで、生徒の書くことへの抵抗を少なくするとともに、端的に思いを書き表すことができる。発表が苦手な生徒が多いが、この活動により、発表できない生徒の思いを知ることができ、どの生徒も大事にすることができた。

本時のねらい

郷土に誇りと愛着をもち、先人たちに支えられた自分たちのふるさとを大切にしていこうとする態度を育てる。

展開の概要

	学習活動、発問、生徒の反応	道徳の時間の充実に関すること
導入	学習活動 校歌を斉唱し野上町について考える。 発問 「三つの誓い」とは何だろう。 発問 1年生の時に学習した総合学習について思い出してみよう。	工夫1 野上を身近に考えさせるために、学校生活にかかわった校歌を取り上げる。 工夫2 野上はどんな町だと感じたか、よさはどんなところなのかを考えさせる。より身近にするために1年で総合的な学習の時間に扱った地域の写真を提示する。

展 開	学習活動 中心発問 資料「野上町を愛する詩」を読み、作者の気持ちを考える。 作者はこの野上町に対してどんな気持ちをもっていると思うか。 ・自然とその美しさを愛している詩だ。 ・美しい野上町に感動していると思う。 学習活動 学習活動 発問 自分の体験をふり返る。 「野上町を愛する詩」を作る。 「野上町っていいな」と感じたことはないか。 ・修学旅行から帰ってほっとしたこと。 発問 班になって、一節ずつ作った詩をつなげて、一つの詩をつくってみよう。	工夫3 あと半年で義務教育を終える生徒たちに、郷土に育まれてきた文化や伝統に思いを寄せるとともに、改めて野上町のよさ、美しさに気づかせるために、「野上を愛する詩」を取り上げ作者の気持ちを考えさせる。 工夫4 野上に対する自分の思いを書くことで、ふるさとのよさを改めて見つめ直させる。 一節ずつ書くことは、思いを端的に表現でき、書くことの抵抗をなくすことにつながる。
	終末 学習活動 ゲストティーチャーの話を聞く。	工夫5 ゲストティーチャーの思いを知ること、郷土の伝統や文化を大切にしようとする気持ちを深めることにつながった。

指導の工夫について

工夫1・2・3

導入の工夫と郷土資料を取り入れる方法、視覚を通して心を揺さぶる方法

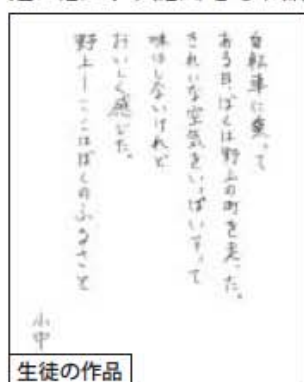
この時期に郷土のよさを知ることがなぜ必要なのかを考えさせ、郷土を愛し社会に尽くそうとする心情を育てることは、大変意義深いものである。授業構成で大切にしたのは、特に導入と終末である。導入では初代校長が作られた校歌を歌わせることで、資料とのつながりを持たせた。終末ではゲストティーチャーから校歌に込められた思いをお話いただくことにより、半年後に巣立っていく生徒たちに、先人達の想いを継承させたい。そこには野上町のよさを再認識して野上中学校を卒業させたいという願いがあった。また、町内の美しい風景の拡大写真（クラスの生徒が撮影したもの）を提示することで、生徒たちの住む野上町には、都会にないすばらしい自然や環境がたくさん残っていることに気づくよう留意した。

工夫2・4 総合的な学習の時間とのリンクと書く活動

生徒は、素直で明るく、行事にはみんなで協力して取り組むことができる。一方、自分の思っていることを人前で表現することが苦手である。知識だけではなく、体験や情感的な理解に重点を置くことで、生徒たちの自由な感じ方や表現を引き出すよう心がけた。

また詩を書くことにより、発表が苦手な生徒の思いも大事にすることができた。

工夫5 終末の工夫 ゲストティーチャーとして、元野上町中央公民館長をお招きし、野上町を身近に感じ、共感できるお話をしていただいた。元館長は、本校が昭和33年に町内3中学校が統合し



て開校された当時、初代校長とともに学校づくりに取り組まれた経験を持ち、校歌や校訓に込められた思いや当時の地域・保護者・中学生の本校に寄せる気持ちなどを鮮明に記憶されている。また、野上町をこよなく愛した初代校長の詩は、空から眺めた野上町の美しさと、自然の偉大さ、郷土を愛するとは何かを教えてくれる内容となっている。



野上を愛する詩 吉田 敏

ヘリコプターに乗って
ある日、わたしは野上の空を飛んだ。
それは、風もない早春の朝のことであった。
野上の空は晴れて美しかった。
翼のひびきに消されて 何も聞こえなかったけれど
眼下に見える町のたたずまいは
まるで初めての土地のようであった。
まさに快適—
わたしは少年のようなまなざしで
じっと 窓辺に移りゆく風景をたのしんだ。
東から西へ—
さらに北へと、大きく弧を描いて
ゆるやかに流れゆく一筋の川がある。
川は真珠の首飾りか—
太古、まず川があった。
川のほとりから、流れに沿って、（以下 省略）